資源環境経済学特別演習 II 議事録（２月）

２０１１ 年 度 第 １ ３ 回

報告題名　農産物流通の商人ーインドネシアの事例ー	
報告者　　**池田真也** （**所属分野**）国際開発学	**日時**　**２月２日　午後３時～** **場所**　**第二講義室**
座長　**中村彰宏**	**議事録担当者**　**滝田雄基**

出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、韓、スチン、神浦、宮里、池田、易思、威廉、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、堀、山口、泉井、金、今井、渋谷、室井、ナスンムンク、劉、伊藤、佐藤、西田、門馬、菅原

報告要旨

現段階での博士論文の Research Questions と本年度取り組んだ課題の進捗と今後の予定を報告する。まず背景として、途上国の農産物市場において商人の果たす役割が明示的に取り上げられることが少なかった点と、農産物市場の動態において商人が重要なアクターである点を指摘する。本研究では事例としてインドネシア・ジャワ島における農産物流通を取り上げる。

次に研究課題として、

１．消費市場における市場統合度と商人の合理的行動との関係

２．卸売商人の多様性と流通構図

に関して経過と今後の予定を報告する。

質疑・応答

中村：課題３において、生産者が高付加価値の野菜に生産を切り替えないのかということが書かれていますが、生産者もしくは行政についての問題に思えるのですが、これに関して商人がどう関わってくるのかということについてもう少し詳しく説明をお願いします。

池田：伝統的には商人と生産者は関係を持っていて、商人が利潤を追求する意欲が強ければ、生産者の生産体系にまで踏み込んで改善していくといった事例もいくつか報告されているが、全部がそういうわけではない。実際の商人の関係というのはどこまで生産意思決定まで影響を与えるのかというところがよくわかっていないというのが現状です。

伊藤：消費者市場と、卸売市場、産地市場の３市場に登場する商人は同一人物ということもありえるのですか？

池田：ありえます。今の段階で、生産地の市場に関しては分かりませんが、商人間連系の部分に出てくる商人と、消費地に出てくる商人は同一であることもあります。定義しますと、小売商人と、小売商人に農産物を売りつける卸売商人と言う形があり、第２章でやろうと考えているのは、卸売商人と地方にいる産地の商人です。産地のほうについてはデータがまとめ切れていません。

伊藤：何を明らかにしようとしているのかが上手く伝わってこない。インドネシアのマーケットでの商人の役割を明らかにしたいということなのだろうが、果たしてどの段階の部分において何を明らかにしたいのかが伝わってこない。もう少し長いスパンのもしくはどのステージの商人の役割を明らかにしようとするのか、そのあたりをクリアにしたほうがいいのではないか。参考に日本でも商人がどのように変化していったかという研究蓄積はあるので、そういったものを参考にしながらインドネシアを対象にしていくことも取り組んではどうだろうか？

　また、ラヴァリオンの市場分析が１９９０年頃から多く行われているので、とりあえずそれで結果を出してみたらいい。

長谷部：タイトルがよくわからない。また、商人の役割というのは市場の均衡を調節するといった役割と捕らえているのか？

池田：そう考えています。生産者と消費者だけでなく、商人をその間に入れたほうがよりよい均衡になっていくので、不均衡状態を是正するアクターとして考えている。

　タイトルについてですが、流通の各過程を見ているということをアピールしたかったということでこのようなタイトルにしました。

長谷部：価格の安定性というところはどのように見ていくのか？

池田：価格の fluctuation を見ていくだけでも分かるかと思いますが、課題１の消費市場を見ていく上での advanced になっています。価格がどう安定していくかというときに、商人の在庫行動に価格を安定させるという効果があるという論点があって、在庫調節機能とはどうなのかということを見ていきたいと思っています。そこで上手くいけば、安定的行動に結びついていくのではないかと思っている。

米倉：スライド６におけるモデルで、ｉとｊがあるが、相互に見ているのか方向性があるのか？
池田：ｉからｊの一方的なものです。
米倉：そうすると、左図の構造化された流通関係ということだが、それがなぜ市場統合なのか。１の下で統合されている意味になってしまうのかがわからない。左図との関係で言えば、ｐ１からｐ２、ｐ３に財が流れていくということになっているのか？
池田：ｐ１からｐ５までは並列になっています。そこから市場間の関係を構造推定しています。
米倉：もう一つは、スライドの１０でバンダルとチュンテンが出てきているが、バンダルの語源はアラビア語か？
池田：そうです。
米倉：チュンテンは語源的には中国語のような気がする。そういった言葉がなぜ野菜市場で使われているのか？
池田：分かりませんが、補足情報としては、マランのほうではこの２語は聞きませんでした。でもジャカルタなどの西ジャワの大きな市場では使われています。地域性を考えると、西ジャワのほうでは中国の力が働いていた名残なのではないかと思われます。
米倉：ジャカルタとバンドンあたりは市場が統合されていたということ？
池田：そのような研究をされている方がいて、それを見たら統合されているようでした。また、産地から見るとジャカルタにもバンドンにも出しているところが多かったです。
米倉：市場の歴史を見ても面白いかもしれない。